

不登校未然防止「早期対応マニュアル」NO1

●不登校の予兆に気付けば、対応が早くなる。

【不登校の予兆チェックリスト】

担任が中心になって実態把握と情報収集

- 表情がさえない
- 顔色が悪い
- 遅刻が増えた
- 早退が増えた
- 保健室の利用が増えた
- 休み時間、孤立している
- 授業中、しんどそうである
- 体調を崩しやすい
- 家庭環境に変化があった
- 兄弟姉妹の欠席が増えている
- 友人関係でトラブルがあった
- 登校渋りで遅刻がある

該当する項目があった場合

【行動観察のポイント】

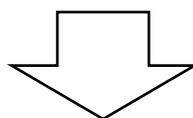
全教職員で学校生活を観察

- 登校 ・挨拶時の反応、顔色、表情、遅刻
- 朝の会 ・出席確認、表情、顔色、体調
- 授業 ・表情、顔色、早退や保健室利用はないか
- 移動 ・一人で移動していないか
- 休憩時間 ・孤立していないか、友達との関わり
- 下校 ・挨拶時の反応、表情、顔色、下校の状態
(帰りたがらない等)



学年会や生活指導夕会、校内推進組織（いじめ不登校対策委員会）で情報共有、共通認識

不登校の予兆が見られたら、対応策を検討。



「早期対応」を始める。

不登校未然防止「早期対応マニュアル」NO2

<予兆に気付いたら>

① 【実態把握】

- ・登校できている時に声かけ
- ・担任を中心に実態を把握

② 【情報収集】

- ・保護者から聞き取り 家庭の変化・兄弟姉妹の変化
- ・校内での情報収集 学校生活の変化

<不登校を本格化させないために>

*事例検討を始める

③ 【管理職・不登校対策委員会に報告】

④ 【情報共有】【共通認識】

- ・学年会や生活指導夕会等で情報共有
- ・(参考資料1)を用いて共通認識
- ・個人情報の取り扱いに注意

⑤ 【対応策の検討】

- ・不登校対策委員会で対応策を検討

※不登校の本格化を防ぐ対応

連続欠席3日

断続欠席13日

欠席1日目

電話や連絡帳で欠席理由が分からない場合には必ず

【電話連絡】

- ・児童の実態を把握
 - 病欠の場合は、症状の確認と、医療機関の診察を確認。
- ※病欠の場合は2日目又は、3日目に。

連続欠席2～3日目

【電話連絡】

- ・児童の実態を把握
- ・保護者からの聞き取り
- 病欠の場合は、症状の確認と、医療機関の診察を確認。

断続欠席13日目

【電話連絡】【家庭訪問】

- ・児童の実態を把握
- ・保護者からの聞き取り
- 病欠の場合は、症状の確認と、医療機関の診察を確認。

連続欠席3日/断続欠席13日目

児童の状況を校内で共有

※支援が必要な場合は、ケース会議を開き、個に応じた支援策を検討する。

※3日、13日に限らず、必要に応じて情報共有をお願いします。

担任ひとりで抱え込まない
ようにしましょう!



各学年の生活指導メモに記入

校内で記録を残す。

年間30日以上

不登校支援シートの記入

毎学期末に市へ報告する。